

関学 SOGIE プロジェクト

2022 年 Web 調査報告書（速報版）

本 Web 調査は、関西学院大学人権教育研究室の研究員である武田丈と澤田有希子などで構成される「関学 SOGIE プロジェクト」が、日本学術振興会の科学研究費（19K02258）「多様性尊重のための SW に対する CBPR の有効性の検証」（研究代表者：武田丈）の一環として実施したものです。

【目的】

本 Web 調査は、LGBTQ+をはじめとした多様なセクシュアリティを取り巻く本学の状況を把握し、誰もが自分らしくいられるキャンパスの実現を大学に要請していくために実施いたしました。今後、本調査結果をもとに全学版の教職員向けの SOGIE ガイドラインの作成を大学に要請するとともに、教職員や学生を対象とした研修の開発・実施を行なっていきます。

【対象】

セクシュアルマイノリティ当事者・非当事者にかかわらず、関西学院大学の在学生・院生・教職員の方、および関西学院大学を卒業された方。2015・2016 年度の「LGBT に関する調査」や、2021 年度関学レインボーウィーク中に実施した「関学生 1000 人に聞く！！ジェンダー意識調査」にご協力いただいた方も対象。学内のポータルサイド KWIC で案内するとともに、関学 SOGIE プロジェクトのInstagramや Twitter などのソーシャルメディアでも案内した。

【実施期間】

2021 年 12 月 1 日(水)～2022 年 1 月 31 日(月)

【連絡先】

本調査に関する問い合わせは、関学 SOGIE プロジェクト代表の武田丈（jotakeda@kwansei.ac.jp）までお願いいたします。

*なお、詳細な分析内容はいずれ論文にまとめて公開する予定にしております。

以上

本調査で用いられる用語の説明

- ヘテロセクシュアル：異性愛者。
- ゲイ：男性同性愛者。
- レズビアン：女性同性愛者。
- バイセクシャル：両性愛者。
- パンセクシャル：全性愛者。
- トランスジェンダー：出生時に割り当てられた性別と自認する性別が一致しない人を表すラベル。「トランス」と略されることもある。
- シスジェンダー：出生時に割り当てられた性別と自認する性別が一致する人を表すラベル。トランスジェンダーの対義語。
- ノンバイナリー・Xジェンダー：自分の性自認が男性・女性のどちらにもはっきりと当てはまらない、または当てはめたくない、という人を表すラベル。
- クエスチョニング：自らの性のあり方（ジェンダー）や性的指向（セクシュアリティ）について、特定の枠に属さなかったり、わからない人を表すラベル。
- デミセクシャル：他者に対して基本的に性的欲求を抱くことはないものの、強い愛情や深い友情を持った相手に対してなど、ごく一部の相手に性的な欲求を抱くこともある人のことを表すラベル。
- アセクシャル/エイセクシュアル：この調査では、他者に対して性的欲求を抱かない人のことを表すラベルとして用いる。

回答者の属性

本 Web 調査には 400 人の方にご回答いただきました。

関学とのかかわり

学部生	学部留学生	大学院生	大学院留学生	聴講生	専任教員	非常勤講師
204	9	22	7	2	37	6
常勤職員	非正規職員	特に関わりがない	答えたくない	その他	計	
29	22	32	2	28	400	

上記の「関学とのかかわり」で「特に関わりがない」と答えた人かつ卒業生ではない人以外（388 人）を抽出して、これ以降の分析を行っています。

セクシュアリティの分類

当事者(非トランス)	当事者(トランス)	非当事者	計
107	16	265	388

非当事者 265 名の内訳: 男性シスジェンダーヘテロセクシュアル¹80 名、女性シスジェンダーヘテロセクシュアル²185 名

関学とのかかわりと当事者・非当事者の分類

	学部生	学部の留学生	大学院生	大学院の留学生	聴講生	専任教員
当事者	66	6	6	2	2	10
非当事者	138	3	16	5	0	27
総計	204	9	22	7	2	37

非常勤講師	常勤職員	非常勤職員	卒業生	答えたくない	その他	総計
2	9	2	8	1	9	123
4	20	20	12	1	19	265
6	29	22	20	2	28	388

¹ 男性シスジェンダーヘテロセクシュアル…出生時に割り当てられた性別と自認する性別が一致する異性愛男性のこと。

² 女性シスジェンダーヘテロセクシュアル…出生時に割り当てられた性別と自認する性別が一致する異性愛女性のこと。

調査結果

* 以下に公開する調査結果の中の自由記述の部分に関して、回答者の意見を尊重して一部差別的なコメントもそのまま掲載している箇所があります。また、回答者のプライバシーに配慮し、個人の特定につながる可能性のある回答について、内容が損なわれない範囲で修正を加えました。

Q3. 現在の関学キャンパスについておたずねします。

あなたは以下の記述にどの程度同意しますか？「まったく同意しない」～「強く同意する」の間でお答えください。わからない場合や答えられない場合は「わからない/答えられない」を選択してください。

現在関学はLGBTQ+フレンドリーな大学キャンパスである。

当事者（非トランス）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	わからない/答えられない	現在とくに関わりがないため非該当	計
2名 (2.0%)	15名 (15.0%)	15名 (15.0%)	40名 (40.0%)	9名 (9.0%)	12名 (12.0%)	7名 (7.0%)	100名 (100%)

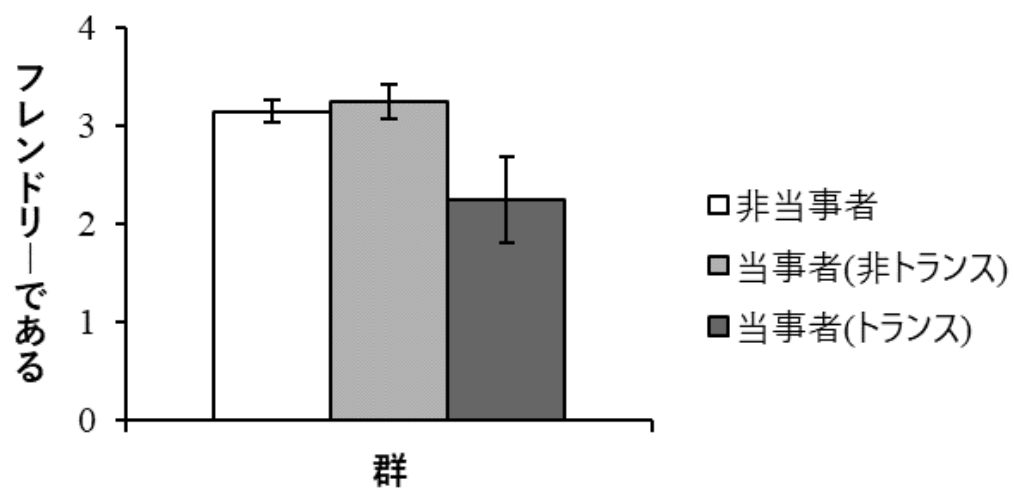
当事者（トランス）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	わからない/答えられない	現在とくに関わりがないため非該当	計
2名 (12.5%)	5名 (31.3%)	1名 (6.3%)	4名 (25.0%)	1名 (6.3%)	3名 (18.8%)	0名 (0.0%)	16名 (100%)

非当事者

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	わからない/答えられない	現在とくに関わりがないため非該当	計
3名 (1.2%)	27名 (10.5%)	39名 (15.1%)	104名 (40.3%)	13名 (5.0%)	46名 (17.8%)	26名 (10.0%)	258名 (100%)

群ごとの平均値



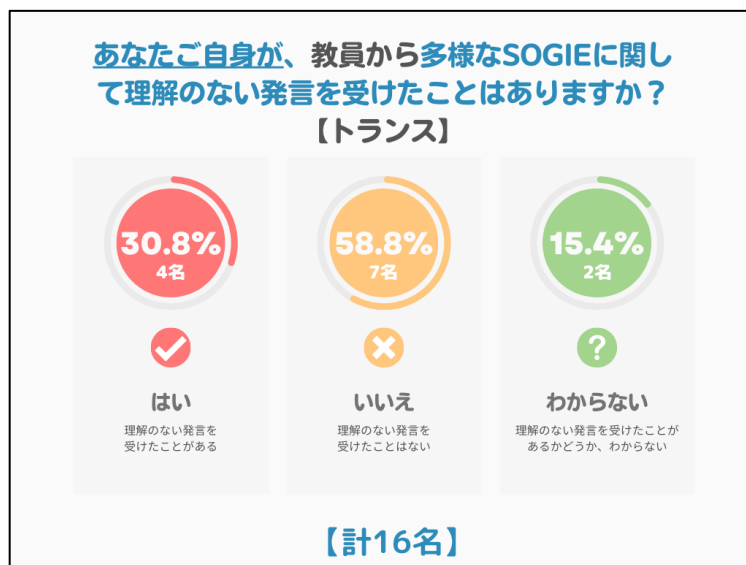
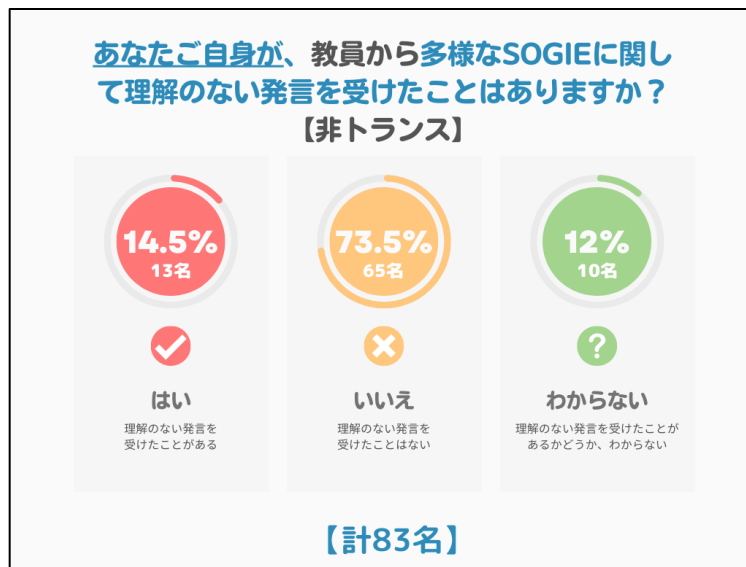
一要因分散分析を行った結果、群間に有意差は見られなかった。

Q4. キャンパス内で、以下の経験をしたことはありますか？【当事者のみ】

設問中の【SOGIE】とは、以下のことがらを指します。

【SOGIE】 ①Sexual Orientation、②Gender Identity、③Gender Expression を組み合わせてできた用語です。①は性的指向、つまり性愛感情を抱く性別、②は性同一性、つまり生活している／生活したいジェンダー、③はジェンダー表現をそれぞれ意味します。SOGIE は、マイノリティだけでなくすべての人の性の要素「そのもの」を指しています。

Q4.1. あなたご自身が、教員から多様な SOGIE に関して理解のない発言を受けたことはありますか？



（「はい」と回答した人を対象に）

Q4.1.2. 具体的にどのような点か教えてください。

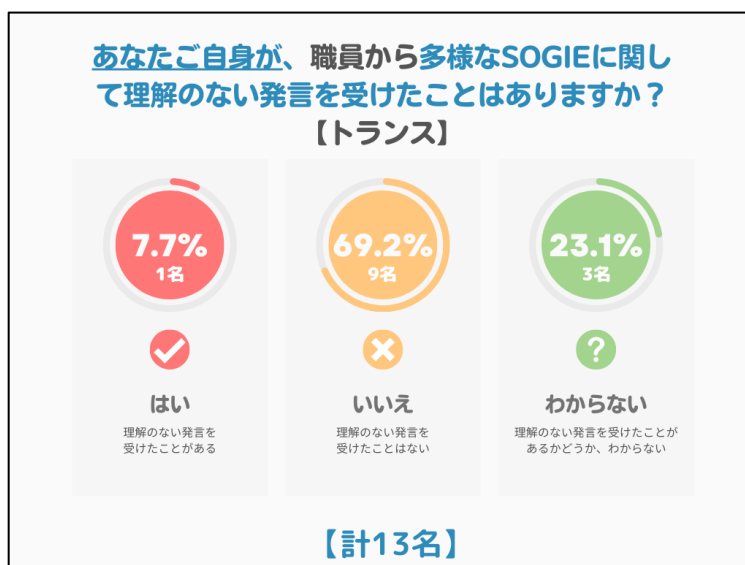
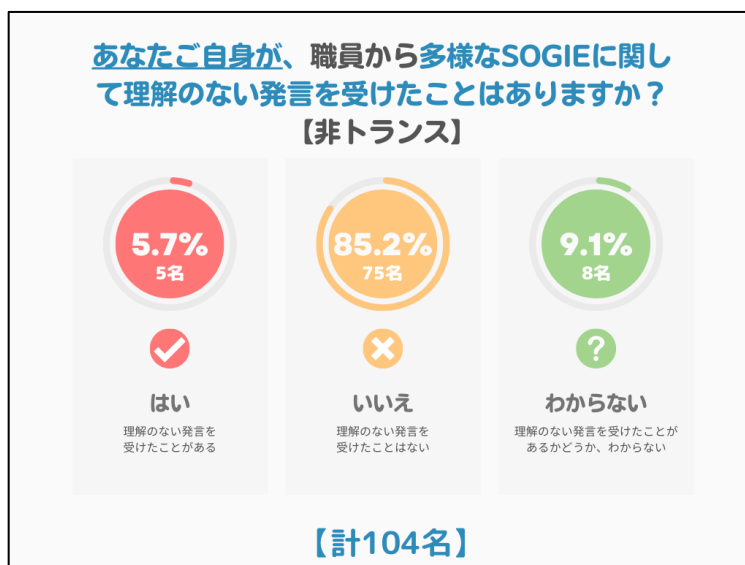
【非トランス】

- SOGIE とは多少ずれるかもしれませんが、毎回の授業開始時に、学生に対し Zoom で顔出しをするよう求める際、「(時代的に)こんなことを言うてはいけないのかも知れませんが、このクラスの女子の皆さんはお綺麗ですし男子もイケメン揃いだと思いますので、ぜひね、顔を出していただけたらと思います」と発言する教員がいました。(現役生)
- 恋人やパートナーは異性という固定概念で話をされた。(現役生)
- 性的マイノリティに関する授業で、あたかも生徒の中に性的マイノリティはいないことが前提のような話ぶりであった。また、受け入れる、理解する、といった提案がなされていて違和感があった。(現役生)
- (発言者は)外部講師だが、どうして恋愛をテーマにした広告表現が多いのか質問した際に、「人間は恋愛するのが普通。人を好きになることが大事だから」と返答され、すこしモヤモヤした。(現役生)
- 異性愛が前提の話をされる(女子学生に対して「彼氏はいないの？」など)。「僕は学生がゲイでもいいんですけどね」などの発言：差別的な意図はないかもしれないが、「学生がゲイであること」は教員の承認(例：「いいんですけどね」という言葉)を必要としない。教員が承認する・しないを決めるようなことではない。教員の独断によるジェンダーの判断(例：「～さん」「～くん」の呼び分けは、本人の希望によるものではなく、教員が勝手に決めている。言語の授業の際、男性名詞・女性名詞を習った。その時、話し手のジェンダーによって用いる語彙が異なることを学んだ(例：話し手が女性ならば、Je suis etudiante、話し手が男性ならば、Je suis etudiant.など。その流れで、「最近は LGBT などの問題もあるけど、ややこしいから、とりあえず学生さんが男か女かしか考えない」と言われた。最近は英語圏では she/he 以外に they という代名詞を利用しているように、フランス語でも、男・女にあてはまらないジェンダーの人の代名詞があるのにもかかわらず、そういうことを「ややこしい」からと説明しないことには配慮が欠ける。このフランス語の授業では「フランスの文化背景なども含めて授業をする」という説明があったため、昨今、LGBTQ+の人々の権利が主張されるようになっていく中で、フランス語がよりジェンダーインクルーシブになるためにどういう変化をもたらしているか、という説明を文化的背景を交えて説明することは授業をより豊かなものにする。LGBTQ+の問題を「ややこしい」と片づけてしまうのでは、差別の軽減をむしろ遠ざける。(現役生)
- あるゼミへの参加を希望したら、そのゼミの詳細を書いたレジュメの内容が、女性の容姿に執拗に言及するものだった。私の性自認は女性であるが、性表現は男性に寄っているため女性であるというだけで外見に言及されることを非常に苦痛に思った。(現役生)
- ホモネタ。質問の内容や例文が異性愛前提(卒業生)
- 昔の話ですが、性的指向を「そういう趣味」と言われたことがある。人権問題として受け止めてもらえられず、仕方ないと思いつつも、不愉快だった。(教職員)
- 異性と付き合って結婚するのが当然だと言われた。(教職員)
- 恋愛感情を抱くことが当たり前であるかのような内容の話を振られた。(教職員)
- 「女性なんだから早く結婚した方がいい」「彼氏いないの？どうしていないの？」等、異性愛を押し付けられる。(教職員)

【トランス】

- 飲み会でのホモネタ(現役生)
- 自分の自認している性別と異なった対応をされた(授業中でくん付けでよばれるなど)(現役生)
- 教室内のジェンダー比を検証するいうときに、(改名済みで中性的な名前&カメラオフ)「～くん?～さん?は男性ですか?女性ですか?」と授業中にひとりだけ名指しで聞かれた。その場でのフォローはなく、今後の同期との付き合いも考えて強制的にカミングアウトさせられるしかなかった。(現役生)

Q4.2. あなたご自身が、職員から多様なSOGIEに関して理解のない発言を受けたことはありますか?



（「はい」と回答した人を対象に）

Q4.2.2. 具体的にどのような点が教えてください。

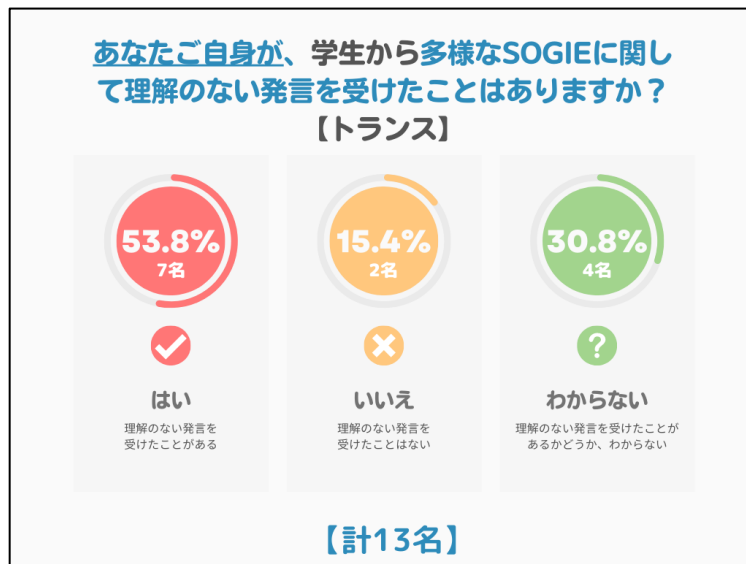
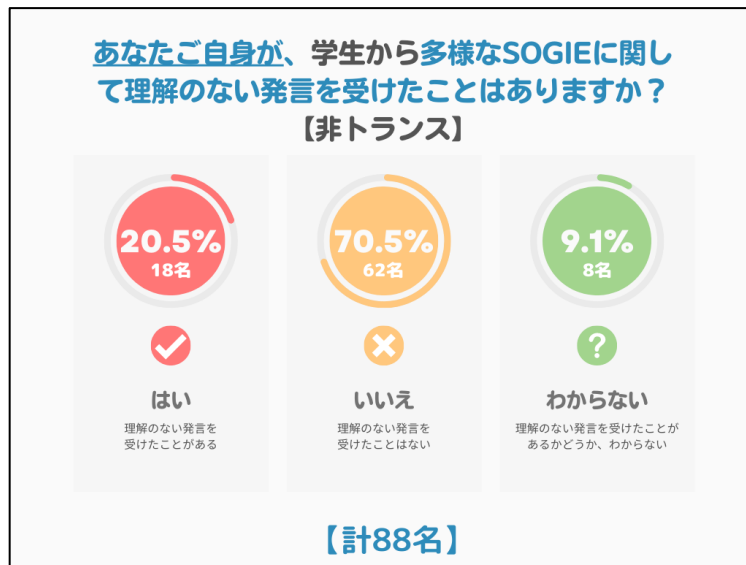
【非トランス】

- 昔の話ですが、カムアウトしていたので、複数から「隠しておくべきだ」という意見を言われたことがある。多くは私が不利益を受けないように心配から来る発言だったが、関学がどのように映るか、よく考えるように諭されたこともある。当時は十分な理解がされておらず、がっかりさせられたり、不愉快に感じさせられたりすることは多かった。（教職員）
- 同性愛者を馬鹿にするような発言。（教職員）
- 「女性なんだから早く結婚した方がいい」「彼氏いないの？ どうしていないの？」等と、異性愛を押し付けられる。（教職員）
- 他人の性的指向や性同一性に関するうわさ話を聞かされる（教職員）

【トランス】

- 身体測定の際に男女で日程が別れており、受付で並んでいる時に「本日は女性ですよ」と周囲に人がたくさんいる状態で言われて気まずかった。（卒業生）

Q4.3. あなたご自身が、学生から多様な SOGIE に関して理解のない発言を受けたことはありますか？非トランス



（「はい」と回答した人を対象に）

Q4.3.2. 具体的にどのような点が教えてください。

【非トランス】

- 理解のない発言と言えるかは分からないが、私がヘテロセクシュアルであることを前提として恋愛の話題を振られることが多々ある（現役生）
- 恋愛に関して興味がないということを認めない趣旨の会話（現役生）
- 恋人は異性という固定概念で話が進んだ。（現役生）

- 大概の人の第一声が、彼女いる？から始まる。(現役生)
- 友人を冗談でゲイと呼ぶ、など。(現役生)
- 恋愛にあまり興味が無いと言うと、ありえないといった反応が返ってきた。(現役生)
- 仕草が女性らしいと同じ授業を履修している学生に影でいわれているのを感じたことがある。(現役生)
- 恋バナのネタは持っておいた方がいいよ、と言われ困った(現役生)
- よく彼女がいるか?彼女が欲しいかという雑談が結構あった。別にカミングアウトしたくないから、なんとか誤魔化したが、こういう質問はきわめて失礼だときづきなさいと思っている。(現役生)
- たわいもない雑談の中で LGBTQ+の人が「笑いのネタ」として消費されることがよくある。(例：「お前、オネエかよ」「ゲイみたいな格好」など)(現役生)
- 男性ウケのためにメイクやお洒落をしているのではないのに、「そういうのは男ウケ悪いよ、モテないよ」などと言われたことがある。また、私はデミセクシュアルなので恋愛に消極的な方だが、女の幸せ＝彼氏を作るという主旨の発言を多くする男性がいるため不快に思い、その男性が入っているグループLINEを抜けたこともある。(現役生)
- 女子はこうだからという物言い(卒業生)
- どこで知り得たのか、私がゲイであることを知っており、面と向かって「きしょっ」と言われたことがある。昔の話です。(教職員)

【トランス】

- 同性愛について、「そっち系」といった表現が使われていた(現役生)
- どこでも古風なおしとやかで『女らしさ』を求められる。(現役生)
- 飲み会の時のホモネタ、またそのホモネタに対して周囲が笑って、止めなかった。(卒業生)
- ホモネタ。同性愛者なのか疑われたら気持ち悪いと言われる。(卒業生)
- 在学中に LGBT に関してゼミで発表したときの反応が悪かった。ポスタープレゼンのときにホモのこと？と通りすがりに言われた。(卒業生)
- 性の多様性を唱える人(女性)は男たらしだったり複数の人と関係を持っていたりするのか、というようなことを言っている人がいました(現役生)

Q4.4. キャンパス内で以下の経験をしたことはありますか？(複数回答可)

- 授業内などでの男女による「くん」「さん」づけや、「Mr.」や「Ms.」づけがあった: 39 名
- トイレが男女別のものしかなかった: 21 名
- 授業内などでの男女でのグループ分けがあった: 16 名
- 更衣室が男女別のものしかなかった: 11 名
- 相談窓口が分からなかった: 7 名
- 事務室での対応でプライバシーが守られずに困った: 4 名
- 学生証の名称変更後に、大学からの郵便物に自分の希望する名前が記載されていなかった: 0 名
- その他: 2 名

Q4.4.2. 差し支えなければ具体的に記入してください。

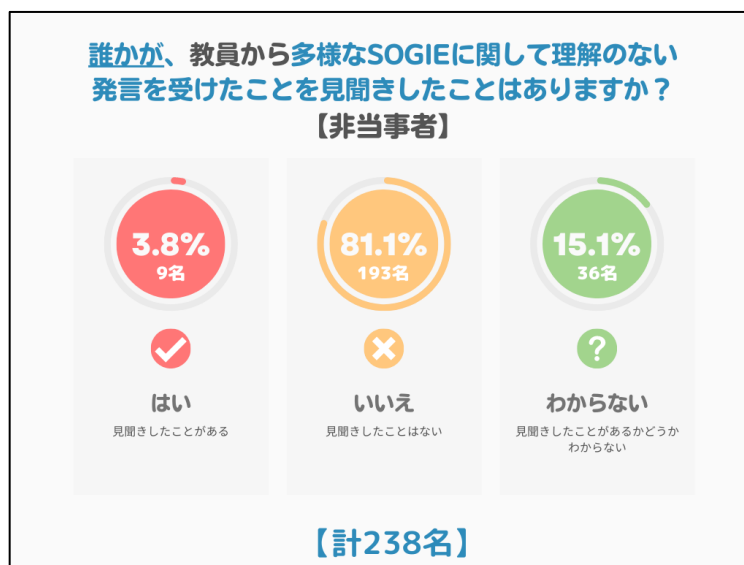
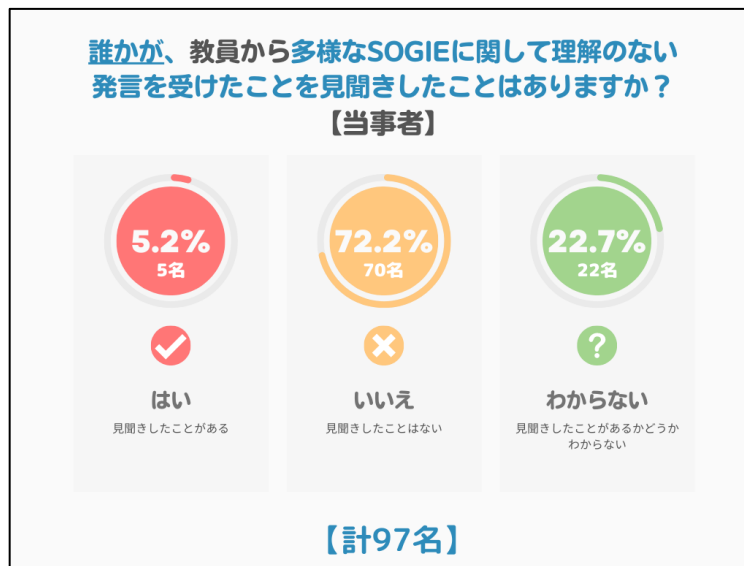
- 座席の移動の際、「男の子の方に動いてもらうべきだ」として男性のみに座席を移動させていた。(現役生)
- 女性にはさんとして男性にはくんと呼ぶなどがあった(現役生)
- 制服が男女別 スラックスを履く人が少なすぎてスラックス=トランスジェンダーという構図ができスラックス制度が意味をなしていない(現役生)
- 教職フランス語の対面授業で、教授が私のことを外見で男性だと判断し、授業中ずっとムッシュ(男性を呼ぶ際に使用する語)と呼ばれた。(現役生)
- 出欠をとる時や授業中に当てられた時に男女でくん、さんづけを分けている人がいた(現役生)
- 学生をランダムに指名していた教員に「男子に答えてもらったから次は女子を当てます」と言われた。授業で性的格差に関する文献を扱った際、教員が発表者に「男性だから難しい?」「女性として共感できる?」と問いかけていた。どちらも、「もし自分がどちらかの性別として当てられたら」という恐怖で苦しかった。(現役生)
- 英語の授業で、本人への確認なく外見や名前で判断されたプロナウンスを使用された。自分はトランス男性だが「Ms.」と言われ続けモヤモヤした。男女のグループ分けは、自認でなく外見に基づいて行われたし、グループワークの分け方自体、特に男女で分ける必要性のないもの(ほかの分け方でも問題ないもの)だと感じた。(卒業生)
- 1年生の頃、健康診断の時、体育館が布で大きく仕切られており、着替える場所は全員その場で全員上半身が裸になって T シャツになる場所があった。周囲も着替えている中で、ボーイッシュな外見の自分がそこにいてどう思われるか不安だったし、自分も周囲に肌を見せたり周囲の肌を見たりもしたくなかった。プールのシャワーのように、個室があればいいのにと感じた。(卒業生)
- 学院内の多くのトイレや更衣室は男女別のものしかないように思います。(教職員)
- 勤務場所に更衣室もなければロッカーもないのでプライバシーが守られず困っている。(教職員)

Q5. キャンパス内で、以下の経験をしたことはありますか？

設問中の【SOGIE】とは、以下のことがらを指します。

【SOGIE】①Sexual Orientation、②Gender Identity、③Gender Expression を組み合わせてできた用語です。①は性的指向、つまり性愛感情を抱く性別、②は性同一性、つまり生活している／生活したいジェンダー、③はジェンダー表現をそれぞれ意味します。SOGIE は、マイノリティだけでなくすべての人の性の要素「そのもの」を指しています。

Q5.1. 誰かが教員から多様な SOGIE に関して理解のない発言を受けたことを見聞きしたことはありますか？



（「はい」と回答した人を対象に）

Q5.1.2. 具体的にどのような点か教えてください。

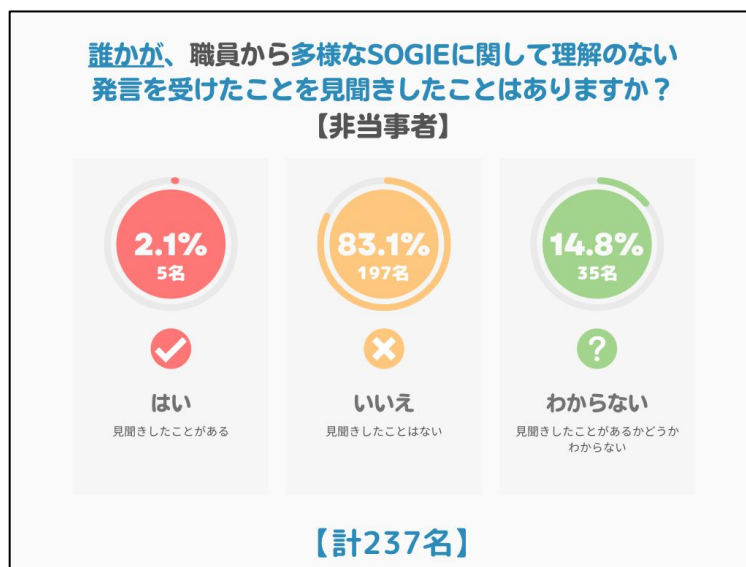
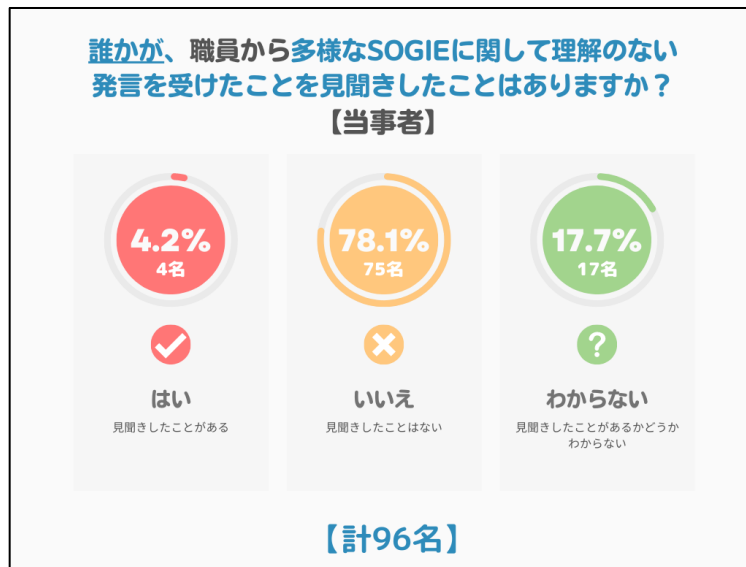
【当事者】

- スラックス生徒になんでスラックスやねんと聞く（現役生）
- 恋愛に関する話を振られていて、周囲の人間もその不快な話を聞かざるを得なかった。（教職員）
- 授業で車の事故について、追突事故を「おかま掘るとかいうけどな～」と笑いながら言って、学生たちも笑った（卒業生）

【非当事者】

- 授業中のたとえ話の中で、異性愛が当たり前であるかのような表現、特定の留学生出身地を教育的水準が低いと決めつけるような表現（現役生）
- ○○さん（女性）が結婚したときに、相手の男性が～…と、パートナーの性別を異性愛者だと断定して話したこと（現役生）
- 女子なんだから～のような就職しないでいいよね、といった発言（教職員）
- セクシャリティの授業で、生徒の意見を間違っている→こういう考えをしなければならない。と訂正している所が気になった（現役生）
- 講義中男女の人数把握のため挙手させる（現役生）
- 授業中の君付け、差別的言動（教職員）
- 残業している職員に対し「そんなに残業ばかりしていたらいつまでも彼女できないよ」（教職員）

Q5.2. 誰かが職員から多様な SOGIE に関して理解のない発言を受けたことを見聞きしたことはありますか？



（「はい」と回答した人を対象に）
Q5.2.2. 具体的にどのような点が教えてください。

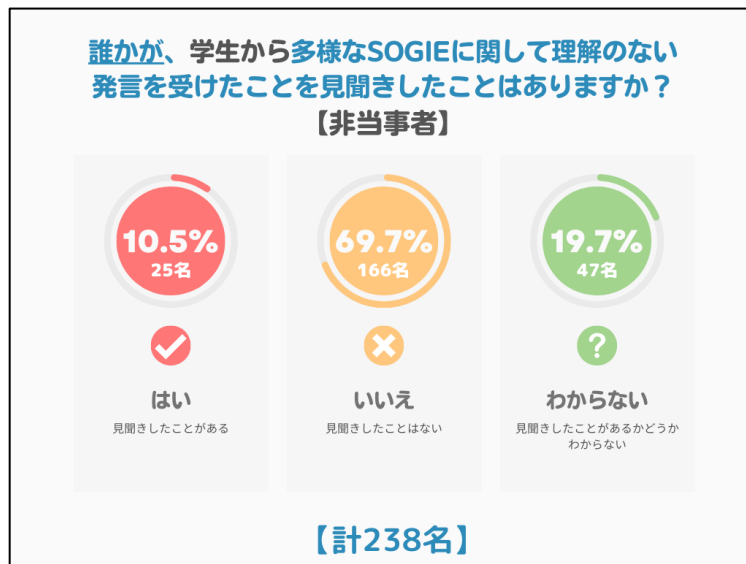
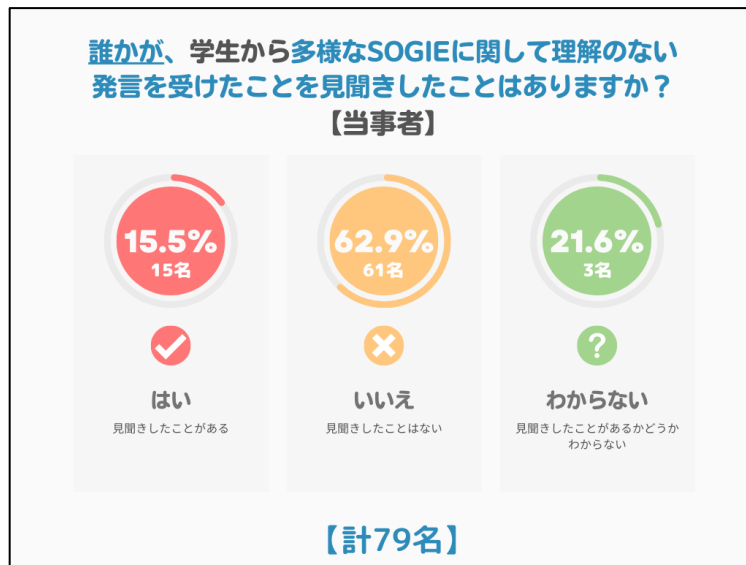
【当事者】

- 性別を理由に寮やサークルで服を脱がされるなどのいじめを受けたゲイの人が、心理室に相談に行ったが理解のない発言を受けた、と聞いた。（卒業生）
- 昔の話ですが、カムアウトしている私には「関わらない方がいい」と言われたことがあると聞かされた。（教職員）

【非当事者】

- トランスジェンダーの方に向かって、他の人の前で生まれたときの性別（現在の外見とは違う性別）で性別分けの発言をしていた（Aさんは女性だから…という発言）。性別を聞く必要のない申請書類について、性別欄が設けられていたことについて、性別欄は不要ではないかとの指摘をしたら、めんどくさそうな反応をされたり、無視されたりした。（教職員）
- 花柄の服を着ている教員を同性愛者だという発言（教職員）
- 性同一性障害の職員のことを、本人がいない飲み会の席で、「男女」と言ったり、「気持ち悪い」と発言していた。同性愛者の職員に対して、配慮のない発言をしたり、本人がいないところで笑ったりすることが散見される。（教職員）
- 「おとおんな」発言（教職員）
- 職員間ですが、あの人は、「アレ」だから、というような表現を聞いたことがあります。（教職員）

Q5.3. 誰かが学生から多様な SOGIE に関して理解のない発言を受けたことを見聞きしたことはありますか？



（「はい」と回答した人を対象に）

Q5.3.2. 具体的にどのような点が教えてください。

【当事者】

- 女の子なんだから行儀よくしなさい等の性別に関連付けた叱責をされた友達が居る。(現役生)
- 同じ学部にも同性愛者の方がいるという噂を聞いたとき、その噂を私に話した友人が、「キモくない？」と言っていました。(現役生)
- サークルの追いコンで女装してパフォーマンスをする姿に、ほかの学生が笑ったり「キモい」

などとヤジを飛ばしていた(卒業生)

- 飲み会で「彼女/彼氏いるの?」「いないなら紹介するよ」としつこく言われた 追いコンで男性の先輩が女装して周囲が「似合わない」と笑いをとっているなか、いたたまれなくてお酒を飲んでいて(飲み会のたびにそんな風にたくさん飲んでいたので、「沢山飲む陽気な人」と認識されていてそれも苦しかった)リサーチの発表テーマで LGBTQ+を選んで調査協力を周囲に求めた時、「差別はダメだと思うけど、自分の周囲にいるのはちょっと・・・」と言われた(卒業生)
- 日常会話でいわゆる“ホモネタ”があった。(卒業生)
- 具体的には覚えていませんが、「(考え方や身体の特徴をからかって) おまえ~だからなあ」「~しろよ」など。学生グループの- おしゃべりが漏れ聞こえてきたときに、打ち解けた当事者間ではある程度許容されているかもしれない言葉でも、近くでその言葉を耳にしてしまう他人にとって不快に感じられる内容の言葉(その中に SOGI ハラにあたるものが結構ある)が発せられていることが時々あって私自身不快に感じる場合があります。主観的ですが、周りの多くの人が静かにしている中でも周囲を特に気にせず会話内容が聞こえるボリュームで会話している、周囲から浮いてリラックスした男女が混じったグループにそういう傾向があるように感じます(どう表現するのが適切かわかりませんが、そういう雰囲気ของกลุ่ม)。(教職員)

【非当事者】

- ゲイの方をオカマなやつと影で言っていた。(現役生)
- 男らしくない、女の子っぽくないなど個人のらしさを決めつける言動(現役生)
- ゲイの人々を揶揄するような内容(現役生)
- 教職異性が好きになることが前提で恋愛話がされる(現役生)
- ゲイやレズをバカにするような発言(現役生)
- 交際相手の有無を尋ねられる際に、「彼氏いるの?」「彼女いるの?」と対象の性別を固定して尋ねられる。
- あり得ないだとか、気持ち悪いなど(現役生)
- 異性愛者以外をバカにするような発言(現役生)
- 女の子なんだから行儀よくしなさい等の性別に関連付けた叱責をされた友達が居る。(現役生)
- ゲイの人って大概イケメンやのになーもったいない(卒業生)
- 笑いのネタにしたような感じです(卒業生)
- 女子同士の会話の中で、当時彼女はカミングアウトしていなかったものの、おそらくバイもしくはレズビアンの子で、その子が居てたにも関わらず、そういうのはちょっとね…みたいな会話になったことを今でも覚えています。ただ彼女がそうかもしれないと私は居てたので心苦しかったです。(卒業生)
- 男同士で恋愛感情を抱くことを「キモい」と揶揄する内容(教職員)
- 「いろんな友達作りたい」「そういうのって理解あるから大丈夫」「具体的にどうやるの」等、心ない発言(教職員)

Q6. キャンパスでの生活についておたずねします。【当事者のみ】

この設問は、みなさんの実際の生活の様子を聞き取る意図で設定しました。必ずしもカミングアウトをしなければならないという前提に立つものではありません。

Q6.1. 現在、あなたは関学キャンパスでいつでもどこでも安心して周囲に自分が LGBTQ+当事者であることを隠さずに振舞えていますか？

当事者全体

はい	いいえ	わからない	計
10 名(12.5%)	39 名(48.8%)	31 名(38.8%)	80 名(100%)

非トランス

はい	いいえ	わからない	計
9 名(13.0%)	34 名(49.3%)	26 名(37.7%)	69 名(100%)

トランス

はい	いいえ	わからない	計
1 名(9.0%)	5 名(45.5%)	5 名(45.5%)	11 名(100%)

Q6.2. 現在の関学キャンパスについて、あなたは以下の各記述にどの程度同意しますか？「まったく同意しない」～「強く同意する」の間でお答えください。

アウティングされる危険性がある。

当事者全体 (平均 3.35)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
5 名(6.4%)	11 名(14.1%)	21 名(27.0%)	34 名(43.6%)	7 名(9.0%)	78 名(100%)

当事者 (非トランス) (平均 3.28)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
5 名(7.8%)	10 名(15.6%)	18 名(28.1%)	25 名(39.1%)	6 名(9.4%)	238 名(100%)

当事者(トランス) (平均 3.73)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
0 名(0.0%)	1 名(9.1%)	2 名(18.2%)	7 名(63.6%)	1 名(9.1%)	11 名(100%)

LGBTQ+について理解しているとは思えない言動がある。

当事者全体 (平均 3.33)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
3 名(3.8%)	20 名(25.7%)	16 名(20.5%)	26(33.3%)	13(16.7%)	78(100%)

当事者（非トランス）（平均 3.27）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
3 名(4.5%)	18 名(26.9)	14 名(20.9%)	22(32.8%)	10(14.9%)	67(100%)

当事者（トランス）（平均 3.73）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
0 名(0.0%)	2 名(18.2%)	2 名(18.2%)	4 名(36.4%)	3 名 27.3%)	11 名(100%)

周囲に理解されると思えない。

当事者全体（平均 3.19）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
3 名(3.85%)	19 名(24.4%)	23 名(29.5%)	26 名(33.3%)	7 名(9.0%)	78 名(100%)

当事者（非トランス）（平均 3.19）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
3 名(4.5%)	17 名(25.4%)	19 名(28.4%)	21 名(31.3%)	7 名(10.4%)	67 名(100%)

当事者（トランス）（平均 3.73）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
0 名(0.00%)	2 名(18.2%)	4 名(36.7%)	5 名(45.5%)	0 名(0.00%)	11 名(100%)

自分のジェンダーやセクシュアリティについて説明するのが面倒だ。

当事者全体（平均 3.58）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
6 名(7.6%)	10 名(12.7%)	12 名(15.2%)	34 名(43.0%)	17 名(21.5%)	78 名(100%)

当事者（非トランス）（平均 3.57）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
5 名(7.4%)	9 名(13.2%)	11 名(16.2%)	28 名(41.2%)	15 名(22.1%)	67 名(100%)

当事者（トランス）（平均 3.64）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
1 名(9.1%)	1 名(9.1%)	1 名(9.1%)	6 名(54.5%)	2 名(18.2%)	11 名(100%)

LGBTQ+当事者であることを明かすことで、拒否されたり距離をとられたりすることがある。

当事者全体（平均 2.95）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
10 名(12.7%)	11 名(13.9%)	33 名(41.8%)	21 名(26.6%)	4 名(5.1%)	78 名(100%)

当事者（非トランス）（平均 2.94）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
9 名(13.2%)	9 名(13.2%)	29 名(42.6%)	17 名(25.0%)	4 名(5.9%)	67 名(100%)

当事者（トランス）（平均 3.00）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
1 名(9.1%)	2 名(18.2%)	4 名(36.7%)	4 名(36.7%)	0 名(0.0%)	11 名(100%)

LGBTQ+当事者であることを明かすことで、学業や仕事で不利に働く可能性がある。

当事者全体（平均 3.03）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
7 名(8.9%)	20 名(25.3%)	25 名(31.6%)	18 名(22.8%)	9 名(11.4%)	78 名(100%)

当事者（非トランス）（平均 3.02）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
5 名(7.4%)	17 名(25.0%)	24 名(35.3%)	15 名(22.1%)	7 名(10.3%)	67 名(100%)

当事者（トランス）（平均 3.00）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
2 名(18.2%)	3 名(27.3%)	1 名(9.1%)	3 名(27.3%)	2 名(18.2%)	11 名(100%)

なにかしても LGBTQ+にとってよりよい環境になるとは思わないので諦めている。

当事者全体（平均 2.68）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
11 名(14.1%)	28 名(35.9%)	20 名(25.6%)	14 名(17.9%)	5 名(6.4%)	78 名(100%)

当事者（非トランス）（平均 2.69）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
9 名(13.4%)	24 名(35.8%)	18 名(26.9%)	12 名(17.9%)	4 名(6.0%)	67 名(100%)

当事者（トランス）（平均 2.64）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
2 名(18.2%)	3 名(27.3%)	1 名(9.1%)	3 名(27.3%)	2 名(18.2%)	11 名(100%)

快適なので、カミングアウトする必要性を感じない。

当事者全体（平均 2.94）

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
9 名(11.5%)	13 名(16.7%)	34 名(43.6%)	17 名(21.8%)	5 名(6.4%)	78 名(100%)

当事者(非トランス)(平均 3.06)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
7 名(10.4%)	8 名(11.9%)	31 名(46.3%)	16 名(23.9%)	5 名(7.5%)	67 名(100%)

当事者(トランス)(平均 2.27)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
2 名(18.2%)	5 名(45.5%)	3 名(9.1%)	1 名(27.3%)	0 名(0.0%)	11 名(100%)

周りに迷惑をかけると思うのでカミングアウトをしたいと思わない

当事者全体(平均 2.62)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
17 名(21.8%)	19 名(24.4%)	24 名(30.8%)	13 名(16.7%)	5 名(6.4%)	78 名(100%)

当事者(非トランス)(平均 2.67)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
12 名(17.9%)	18 名(26.9%)	21 名(31.3%)	12 名(17.9%)	4 名(6.0%)	67 名(100%)

当事者(トランス)(平均 2.27)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
5 名(45.5%)	1 名(9.1%)	3 名(27.3%)	1 名(9.1%)	1 名(9.1%)	11 名(100%)

女性に差別的であったり、ジェンダー差別的な言動がある。

当事者全体(平均 3.33)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
6 名(7.7%)	16 名(20.5%)	18 名(23.1%)	22 名(28.2%)	16 名(20.5%)	78 名(100%)

当事者(非トランス)(平均 3.22)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
5 名(7.5%)	16 名(23.9%)	17 名(25.4%)	17 名(25.4%)	12 名(17.9%)	67 名(100%)

当事者(トランス)(平均 4.0)

全く同意しない	あまり同意しない	どちらでもない	多少同意する	強く同意する	計
1 名(9.1%)	0 名(0.0%)	1 名(9.1%)	5 名(45.5%)	4 名(36.4%)	11 名(100%)

Q6.3. そのほかに、関学キャンパスでいつでもどこでも安心して周囲に自分が LGBTQ+当事者であることを隠さずに振舞える/振る舞えない理由がありますか？

「振る舞えている」理由

- 決して本人が悪いわけではないが、いわゆる無知な人と話すときが一番怖い。そのため、レインボーウィークやこのアンケート企画など定期的に LGBTQ+について広めようという動きが

ある関学キャンパスでは、「誰でも少なからず LGBTQ+に対する事前知識があるだろう」という安心感がある。(現役生)

「振る舞えない」理由

- キャンパス内外に関わらず、特に同性の友達に距離を取られる可能性が怖いから。(現役生)
- 日本人じゃないので、日本人の学生はどう考えているのはわからないです。自分の国の人にカミングアウトしても構わないがやはり日本人へのカミングアウトは緊張します。そして、個人的に隠したほうが便利と思います。説明するのがめんどくさいです。(現役生)
- カミングアウトしなくてはならないという風潮があること、セクシュアルマイノリティである側面ばかりが取り上げられることなど(現役生)
- オープンにしている当事者が一人もいないこと(現役生)
- 性的少数者に対する理解があるほど、同性愛者ということが分かれば、周囲が逆に気を遣ってくると考える。(現役生)
- カミングアウトした相手に負担をかけてしまう。(現役生)
- 人間は誰でもいずれ結婚するものであるという考えに基づいた発言を教授がしたり、私のセクシュアリティを知らない友人から「彼氏いるの?」と聞かれたりするなど、アセクシュアルの知名度が低く、またカミングアウトしても理解してもらえないだろうと感じるから。(現役生)
- トイレや更衣室の問題さえ克服されていれば、それ以外でわざわざ親しくない人にまでカミングアウトする必要はないと思う。自分の性がなんだろうが誰を好きになろうが、他人にとっては知ったこっちゃない。ストレートなら特に知らない人にわざわざ言うことじゃないのに、LGBTQ+だとカミングアウトしないことを悪だと言われてる気がする。(現役生)
- LGBTQ+当事者であることを発言すべき場面が無い(尋ねられることも無い)。「結婚しないのか」くらいのことは尋ねられるが、「したくない」と答えればそれでその話は終わる。踏み入って理由を聞くような人は殆どいない時代となっていて、良いことだと思う。(教職員)
- 誰かに恋愛感情を抱くのが当然という考え方が皆の中にあるように思う。恋愛話をきっかけとして気分が悪くなることもあるので困っている。(教職員)
- 学生に関しては、CASSIS 等のサークルがあるが、教職員に関してのグループ等が無い。また、学生と違い、教職員は何年にも渡って関学にいる可能性があるため、振る舞いにくい。(教職員)

「わからない」理由

- LGBTQ+という感覚ではなく、自分はこう考えるという感覚なため、隠すや振る舞うなどを考えたことがない(現役生)
- 自分の所属する研究科にかんして言えば、結局、男性中心主義的なところから脱却できていない。そうした旧態依然のなかで LGBTQ+のことをがんばりましようと言われても高々知れている。というか、組織としては一才信頼できない。(現役生)
- 相手が偏見の人かどうか、またカミングアウトすることで受け入れてもらえるかわからなくて怖いから(現役生)
- 自分の世代にはそんな考え方が無かった、と言って知ることを拒否する人は老若男女で一定数はいるから。(教職員)

Q7. 現在、他大学の中にはセクシュアルマイノリティの学生およびその支援者のホームグラウンドであるとともに、ジェンダー・セクシュアリティに関心のある全ての人々が自由に利用できるスペース（機関）を設けているところがあります。

Q7.1. 関学にもそのようなスペース・機関（プライバシーに配慮しての相談窓口、およびランチ会など LGBTQ+ の学生や支援者が集えるスペース）を設ける必要があると思いますか？

当事者（非トランス）

はい	いいえ	わからない	計
41 名(58.6%)	6 名(8.6%)	23 名(32.9%)	70 名(100%)

当事者（トランス）

はい	いいえ	わからない	計
10 名(76.9%)	3 名(23.0%)	0 名(0.0%)	13 名(100%)

非当事者

はい	いいえ	わからない	計
156 名(68.1%)	14 名(6.1%)	59 名(25.8%)	229 名(100%)

Q7.3. そのようなスペース（機関）があれば、利用したいと思いますか？

当事者（非トランス）

はい	いいえ	わからない	計
23 名(32.8%)	11 名(15.7%)	36 名(51.4%)	70 名(100%)

当事者（トランス）

はい	いいえ	わからない	計
7 名(53.8%)	2 名(15.4%)	4 名(30.8%)	13 名(100%)

非当事者

はい	いいえ	わからない	計
52 名(22.7%)	32 名(14.0%)	145 名(63.3%)	229 名(100%)

「利用したい」理由(当事者)

- 興味があるため。(現役生)
- 異性愛主義、恋愛至上主義のなかで生きづらい人は大勢いるので、そういったトピックがなく気軽に話せる場はセクシュアルマイノリティのコミュニティでも歓迎されやすいから。(現役生)
- 多様な人々と交流したいため。(現役生)

- 安心出来るから。アンチが怖いけど。(現役生)
- 当事者の方々にに対してどのように振る舞えば良いのか知りたいから。(現役生)
- 私はすでに三田キャンパスでのランチ会を利用し、自身と同じような境遇をもつ人々と出会うことができ、自分は一人ではなかったんだと思うことができました。なのでこれからも多様な人々と関係を続けていけたらいいなと思っています。(現役生)
- LGBTQ+の学生とその「支援者」という表現より、「アライ」などの表現の方がより適切かと思う。「支援」が必要なわけではないので。興味本位で利用はしたい。大学での出会いがなかったり、同じ境遇の友達ができる可能性があるため。でもアウティングなどの危険性は払拭できない。(現役生)
- セクマイ同士で気軽にお喋りしたいから。(現役生)
- 自分の性や性的指向が分からないので、色々な人と会ってもっと深く自分を見つめてみたい(現役生)
- そこにさえいけば安全だと思える。学内のスペースでは、近くにいるグループの雑談など、自分が想定していなかった時でさえ、LGBTQ+に対してに限らず、人種、ジェンダーなどに対する差別的な発言がカジュアルな雑談の中で聞こえてくる。また、そうした言動に遭遇してしまうのではないかと不快な思いをすることが多い。そうした不快な思いから逃れられる場所がほしい(現役生)
- 誰が理解者で、誰が LGBTQ+当事者なのか人目で分からないため、人と壁を作ってしまう方も多くいると思うから。私も結局カミングアウトしてくれた友人と、Twitter などの sns でしかバイセクシャルでデミセクシュアルだと発言できていない。
- 自分以外の LGBTQ+の人と実際に会ったことがないため、もし機会があればキャンパスライフにおける工夫などの意見交換をしてみたい。(現役生)
- 仕事の情報を得たい(卒業生)
- キャンパス内で、どこが誰が安心安全な場所なのかがわからなかったから。「ここなら安心して自分の話ができる、少なくとも否定されたりアウティングはされないだろう」と思えることを、明示してくれている場所があればと思っています。(卒業生)
- 現在はあまり活動できていませんが、cassis のランチ会などに参加したことはあります。LGBTQ+の学生が実際に何人もいると実感できるのは支えになります。(現役生)
- 必要な情報にアクセスできそう、アプリきっかけじゃないと友だちが作れそう(現役生)
- 実際、在学中にランチ会のポスターを見て参加した。そのおかげではじめてセクマイの友人を持つことが出来た。悩みを共有したり、恋愛トークができたのがすごく嬉しかった。正直ランチ会に関しては当事者のみでプライバシーを守らねばならないので大々的に広告することは難しい。実態も行ってみないと分からないところがあり、参加へ一歩踏み出すのも勇気がいると思う。さらにキャンパスでの認知度が低いので参加者が集わないというところがあった。交流できる場もちろん必要ですが、プライバシーを守り相談できる窓口も必要だと思います。そしてそれを必要とする人に認知されるには全生徒が相談窓口があることを知っている状態まで持っていくべきだと思います。(卒業生)
- 当事者にとって不快な言動を見聞きしてしまった際にどう対応し自分の心をまもっているのかを知りたいから。(教職員)

「利用したい理由」(非当事者)

- 関心のある全ての人が自由に利用できるスペースのため、関心があればだれでも利用してよい

スペースであるため。(現役生)

- LGBT に対しての理解を深めるとともに、支援という形で関わることで他人事ではなく、自分のこととして考えていきたいから。(現役生)
- ジェンダー、セクシュアリティについて話すことは興味があっても友人にその話題について深く話すことは難しい部分があり、同じように興味・関心の合う人たちと交流する場はとても良いと感じます。(現役生)
- 相談できる場所が大学という、身近なところにあると安心するから。(現役生)
- あれば相談出来る(現役生)
- 現在、社会はセクシュアルマイノリティに対してまだ優しくなく、セクシュアルマイノリティが心理的なプレッシャーや負担を感じているであろう時期なので、相談窓口やランチ会の設置はとても必要だと思います。(現役生)
- ジェンダーに対する意識について話し合いたい。(現役生)
- 誰もが自分らしくいられるインクルーシブ・コミュニティの実現に近づくから(現役生)
- (性に限らず)少数者と呼ばれる人たちを取り残さないようにする必要があると思うから(卒業生)
- ジェンダーについて深く興味を持っているからです。同じ興味を方達の考え方について聞いてみたいからです。(現役生)
- 私はいわゆる”ストレート”であり、LGBTQ+の当事者でないため、いくらLGBTQ+の方々に必要な支援がどういったものであるかを授業の中で教わっても、実情が不明な部分はまだまだあり、当事者の方々のリアルな声を聞くことができる場、交流の場として利用したいと考えています。(現役生)
- 周りに相談できず悩んでいたり、苦しんでいる人もいるかもしれないため、同じ悩みを持つ人同士で話を共有できるスペースはとても必要だと思う。(現役生)
- LGBT の問題の関心が高まり、より解決に近づく糸口になると思ったから。私自身、性的マイノリティーではないが、そのような人たちが活躍している社会を作っていける方法を考えたいと思ったから。(現役生)
- 個人的に LGBTQ+に関心があって、自分が少しでも理解を深めて、たくさんの人が生きやすい社会作りに貢献したいから。(現役生)
- 友人や家族でも話すのに気を使うけれど、相談窓口があれば安心して話せると思う。また、支援者を集めることによって大学内の積極的なイメージ、肯定的な考えがあるように思ってもらえる。(現役生)
- わからないことも多いので、そのような場所があり関わる機会があることで知る機会にもつながると考えるから。(現役生)
- 理解を深める為(現役生)
- 理解が深まると思ったから。(現役生)
- 異性愛者だと思ってはいるが、自分の性に不安に感じることもあるから。(現役生)
- LGBTQ+について関心をもっている人が集まり、自分の思いや考えを共有することで、将来自分自身が子どもたちに何を伝えていけば良いか考えるきっかけになるから。(現役生)
- ジェンダー・セクシュアリティに関心があるため。(現役生)
- LGBTQ+の当事者でなくても、知ることが大切だと感じるから。若い世代は上の世代に比べて偏見の目が少ないと感じるから、若い世代が社会に対してアクションを起こすためにもこのような機会が必要だと思うから。(現役生)

- 特別扱いすることもなく理解あるうえで誰でも使用できるスペースであってほしい
- 自分が性別に関して悩みを抱いたことがあまりないので、知らないままが怖いのでしりたい。(現役生)
- 理解が深まると思うから(現役生)
- 少数派ゆえに悩みを共有できず、孤独を感じている学生がいるため、そのような場があると紹介したい。
- 大学生の間に色々な方と関わりを持ちたいため(現役生)
- LGBTQ+で悩んでいる人を支えることができれば、利用したいと考えているから。(現役生)
- 学生に相談された際の対応を知りたい。(教職員)
- 問題を認識していないと、自身や他者の発言に注意できないので、今回の講演のような話をしただけだと助かると感じた。また、学生から相談を受けた時に、学生にその受け入れ先を指示できるとありがたい。(教職員)
- みんなで意見を交換し合いたいから。(教職員)
- いわゆるストレートに属しているが、困っている人がいたら、何か手助けできるかもしれないと思うので。(教職員)
- 現状、すぐ利用しようとは思っておりませんが、きっかけがあれば(自身が悩む、誘われる、イベント参加等?) 利用し始めるかと思います。(教職員)
- アライとして関われる場所があれば良いと思うから。(教職員)
- 職員として何かしらの形で支援に携わってみたい。(教職員)
- 多様性とともに生きていきたいと思うから。(教職員)
- アライとしてなにかできることを模索したい。自分の偏見に向き合いたい。(教職員)
- 当事者にとって安心できる居場所は一つでも多くあると良いと考えるため。また、何か支援をしたいと考えているので、そのような場所が具体的にあるとありがたい。(教職員)
- 当事者の集う場所が必要だし、それがオープンに存在している意味→世界市民を目指す校風にマッチする。他大学のようにイベントをどんどん企画していただきたい。(教職員)

「利用したくない理由」(当事者)

- セクシャルマイノリティーのコミュニティに所属する意欲があまりない。(現役生)
- カミングアウトをしていない人がそのような集まりに行くと周りにバレるような感じになりそうだから。(現役生)
- これがカミングアウトと同じでしょうだから嫌です(現役生)
- 利用するとカミングアウトと一緒になるでしょう(現役生)
- 家族でさえ、いかなる他者にさえ話したくない。(現役生)
- 「マイノリティである」とカミングアウトしたくない(卒業生)

「利用したくない」理由(非当事者)

- 自分はストレートだから(現役生)
- セクシャリティに関心がなく、自身も LGBTQ ではないと認識しているため。(現役生)
- そのようなスペースを特別に用意すること自体が不自然ではないでしょうか？
- 自分の性的アイデンティティを明らかにしたくないから(現役生)
- 支援する専門の機関に通うことは自身が性的少数者であることを社会に発信することになる。本人がそれを隠したい場合、悩みがあってもそれを利用することは少ないと考えられる。事務

室など既存の施設で、他の業務同様に対応できるようにするという意味であれば賛同する。(現役生)

- スペースとかを設けるのではなく、LGBTQ についての学びを深める授業や全員に対して LGBTQ が多様性のひとつであることを発信する機会があればよいのかなと思ったからです。(現役生)
- 大学にそのようなスペースがあることで、その問題について考える機会が増える可能性があるから(現役生)
- lgbt 問題にあまり興味がないから(現役生)
- カミングアウトをしたセクシュアル・マイノリティの方々は当該施設があった方が当事者同士で会話ができるため良いと思うが、そうではない方々はそこを利用することがカミングアウトをすることと同様になってしまったり、誤解が生まれてしまったりすることが懸念されるから。また、現在のところ私はとくにジェンダー・セクシュアリティを研究対象にするつもりがないから。(現役生)
- 逆にその方々だけを注目する必要が逆にならないような気がするから。たとえば女性だけが集う場所はないのではないのでしょうか？(現役生)
- LGBT は生物の根本である新たな生を産むことを無視したあるまじき存在である。それを無駄に助長すべきでない。(現役生)
- 自分が該当していると思っていないから。(現役生)
- LGBTQ+の方々のためだけに開かれているのはおかしいため(現役生)
- 必要がないから(現役生)
- 自身の性についての悩みを持ったことがないから。(現役生)
- とくに、自身はジェンダーについての悩みはないから。(現役生)
- そういった機関に行くのに勇気がいるというのが逆に良くないと思うから。(現役生)
- 自分自身が LGBTQ+に該当しないため、もしそのような機関があっても利用する機会がないから。(現役生)
- 男であり女が好きなんで。必要性がない。(卒業生)
- 各大学に設ける必要はないのではないかと思います。それぞれの大学によってクオリティも異なってしまうと思うので。既に設置しているところに関学生も参加できるよう、例えば私立大学横断型などを検討するほうが現実的ではないかと思います。(卒業生)
- そういったスペースが必要な人が多いなら設けたほうが良いとは思いますが、自分には必要がないので利用はしない。一番はそういうスペースが必要のない(性別で区別しない)開けた世の中になることだと思う。(教職員)

「わからない」理由(当事者)

- 教職自分は今のところ LGBT 当事者ではないと思うが、もしそうであると自覚した場合には、利用するかはともかくとして、そういった相談窓口があるという事実で安心するから。(現役生)
- みんなで集まろうとは思わないから(現役生)
- トランスジェンダーや X ジェンダーの人のために、性別を問わず利用できるスペースがあることはもちろん大切だし必要であるから。さらに、私は見た目で男性と間違われることがあり、トイレなどで受ける視線が鬱陶しいから。(現役生)
- 個人的な意見ですがこのような機関があるのがいいことだと思います。しかし、当事者本当に

利用かどうか…もし関西では自分のことを隠している人はこの機関を利用することもしないと思います。(現役生)

- 相談したいことはありますが、設けられたスペースや機関に行くのは敷居が高いように思います。他の人にそのことを知られたらどうしようと躊躇してしまうからです。個人的には、チャットなどであれば、交流や相談などはしやすいように思えます。(現役生)
- 自分の悩みは誰かに相談して解決することではないため(現役生)
- クローズドでいたい、オープンにする必要性を感じない。(現役生)
- 性差だけを切り取って配慮したスペースであれば必要ないし利用しない。性差に拘らず、あらゆる個人的な事情を考慮して(本来あるべき)プライバシーが守られる窓口は必要だとおもう。(卒業生)
- 学生は相談相手がいた方が良くと思う。教職員はこの先も長く勤めることになるので、自身のセクシャリティやジェンダーを誰かに知らせるようなことについて、慎重でいた方が無難と思う(簡単に噂は広まるので)。(教職員)
- 必要な人もいると思うが、自分自身にとって必要かどうかはわからない。(教職員)
- 学生のための場所は必要だと感じるが、教職員の当事者については分からない。(教職員)
- 特定のスペースを設けることで当事者にとって安心感や悩みを共有・相談できる場になる一方、差別化されると考える人もいるかもしれません。また、間違った理解や偏見を生じやすいことも、他の障害者の方々の事例と同様にあるかもしれません。当事者主体で創ることを軸として大学はそれをサポートすることがいいのではないかと思います。利用については、当事者ではないのでサポートという形ならばと思いますが、利用という表現にそぐわないので「わからない」にしました。(教職員)

「わからない」理由(非当事者)

- セクシャルマイノリティに関する相談窓口は、今日、高等教育機関には不可欠です。利用したか否かは、現時点では、具体性がなく「わからない」と回答します。(現役生)
- 具体的なイメージがつかないから。(現役生)
- そもそも大学には授業時間外いることがなく、様々な既存のスペースを利用することが少ないので、そのような誰もが利用できるようなスペースが出来たところで他のスペースと同じように特に利用はしないと思います。(現役生)
- これから自分が自分に感じる性の変化するかもしれないから。(現役生)
- 現時点において自分自身は性に関する事で困ったり悩んだりしたことがないので、そういう場所に行く機会を考えたこともなかった(現役生)
- 特に悩んだことがないので(卒業生)
- 使用したいが、性的マイノリティに該当しないため。(現役生)
- 相談できる場所がないとずっと辛い思いをするかもしれないから。(現役生)
- 人それぞれの価値観があるから(現役生)
- そこに行っても自分が受け入れてもらえるかわからないし、何を話せばいいかわからない。(現役生)
- 私自身には必要だと思わないが、必要だと思う人がいるとは思うから。(現役生)
- 今現在、性的な悩みが思いつかないから。(現役生)
- 自分は性的な問題は抱えていないため(現役生)
- 明確な接点がなく、あまり考える機会もないため。(現役生)

- LGBTQ+の学生や支援者が本当にそのようなスペース・機関を求めているのかが不明だからです。もし、求めているのであれば設けることは良いと思います。また、利用をしたくないというわけではないけれども、実際にできた時にいくかはわかりません。(現役生)
- 相談できる場所、ひとりで悩まないことが最重要だと思うから(現役生)
- 時代の流れであるので多様性理解に必要であると思う(現役生)
- 卒業生で、関学へ出入りしていないため(卒業生)
- 当事者の方たちにとって嬉しいことであるのなら大賛成ですが、逆にそれを設けることで周りとの壁を作るものになるのであれば良くないかなあとも思います。(卒業生)
- 自分のセクシュアリティについて悩みがある人にとって機関があれば相談しやすいのかもしれないが、参加する有無は実際の雰囲気によると思う。(現役生)
- ジェンダーに特に興味がないから(現役生)
- スペースができてからでないとその空間の雰囲気など分からないから。(現役生)
- 悩みがないから。(現役生)
- 現在そのようなスペースが存在しないから(現役生)
- 相談窓口は必要だと考えるが、ランチ会などの交流はあえてしなくてもよいと考える。なぜなら、そういった人の存在を明らかにしたり、その人たちの話を聞いたりするのではなく、その人たちがいること前提で誰もが心地よい環境を作れることが1番目的とされるべきだと考えるから。私自身相談したいことが今はないため。(現役生)
- もやもやを吐き出すために行っても、自分と同じような悩みを持っている人がいなかったら意味ないしなと考えてしまう(私は異性愛者だと自分で思ってきたが、最近そうではないのかもしれないと思うようになってきている。ただ、その確証があるわけではないのでその揺らぎは誰かと共有したいと感じる)。(現役生)
- わざわざ利用することがないかもしれない。また異性愛者である私はLGBTQ+の人たちとどのように接すればいいかがそもそもわからないのもあり、利用するのを躊躇してしまうのもあります。(現役生)
- LGBTQ+の方専用のスペースをわざわざ新設することが逆に、それらに該当する方にとって苦痛になったり、利用しづらくなったりするのではないと思うため。また自分がそのスペース等を利用した場合、周りからどう思われるのか気になるため。(現役生)
- ストレート以外の知人がいない人にとっては、ストレート以外の人に実際に会って交流できる機会を持つことが、LGBTQ+について偏見を持たない手段の1つであると思う。そのような場が設けられることは適切であると考えたため。(現役生)
- 殊更に強調することに疑問を感じるから。法的・倫理的に反しない限り、他人の行為・思考・嗜好に対して寛容であるべきであり、それが”ノーマル”であるべきと考える。逆の事例として、女性専用車両は、逆差別だし、そもそも全女性を収容できない。また、女性から痴漢されているイケメン男性や少年・男児の存在も無しに、”女性は弱いから守られるべき”の固定観念が問題。本論の問題も同質であり、寛容かつ普通を目指すべきと考えるから。(現役生)
- 当事者ではないので少し行きにくい(現役生)
- マイノリティが活きる空間か、を区別する空間によってイメージが異なるから。(現役生)
- 自分は今ジェンダーに関してなやんでいないから(現役生)
- 自信は当事者でないので利用の必要性を感じないが同級生に学生時代にカミングアウトを受けたことがあり、大変勇気が必要であったことを感じたため同じ悩みを抱える人たちが集まれる場所が必要であると考え。(卒業生)

- 卒業生のため、現在のキャンパス状況を知りません。(申し訳ないです)ただ、どんな人にとってもいつでも頼れる場所・コミュニティとの関わりを作ることはとても大事なので、必要だと感じます。(卒業生)
- 必要な人が利用できるようにあれば良いと思うが、自分自身は利用する機会がないように思い、わからないと回答しました。(卒業生)
- 究極の目標として、大学とはすべての人が快適に勉学・研究することができる場であるべきであり、そのための施設や機関は必要である。(教職員)
- セクシュアルマイノリティの学生およびその支援者のホームグラウンドを儲けることに賛成します。しかしながら、そこへ行って何か積極的に働きかけることは思い浮かばないので、わからないを選択しました。(教職員)
- 性に対して違和感を感じている生徒に対してそのようなブースを設けることは必要だと思う。(教職員)
- 非当事者の自分が利用することで、当事者の居心地が悪くなる可能性が考えられるから。(教職員)
- 当事者ではないため。また当事者でもあまりセクシュアリティに触れられたくない方もおられると思うため。(教職員)
- 非正規雇用+パートタイム勤務の為、学内機関を利用する機会がない。利用していいかもよくわからない為。(教職員)
- 自分は該当者ではないので。(教職員)
- そうしたスペースのことを具体的に知らないこともあり、なんともいえない。(教職員)
- 本来なら、ジェンダーの話もセクシャリティの話も日常のなかで話せることが良いのだと思います。だから、「場」を作るべきかどうかは分かりません。(教職員)
- 機関としては、吉岡記念がその役割を担うものと認識しています。(教職員)
- 自分自身は目的がなければ利用しないかもしれない(教職員)
- どう利用するかわからない。(教職員)
- 私は、いつかは LGBTQ+の方々も、異性愛者と同じで特別扱いせずに、ただそのような人であるという認識で過ごせることが大切だと思う。なので、特別に取り上げたり注目して、活動するのも少し疑念が残る。しかし、存在を知らない人がいるならばまずは知らなければならぬことだと思うので、集まる場所などがあるとよいかもしれない。私自身は、特に LGBTQ の人々に対して特別な感情を抱かないので、参加したいともしたくないとも思わない。(教職員)
- 自分自身は、問題を抱えていませんが、そういう場面に遭遇した時には、相談に乗って貰えるところがあると有難いと思います。(教職員)
- 必要とも不必要とも判断できる材料がないから。利用についても同じ。(教職員)

Q8.1. 学内に、セクシュアリティに関する全学的な相談窓口があったほうがいいと思いますか？

当事者（非トランス）

はい	いいえ	わからない	計
53 名(75.7%)	5 名(7.1%)	12 名(17.1%)	70 名(100%)

当事者（トランス）

はい	いいえ	わからない	計
10 名(76.9%)	1 名(7.7%)	2 名(15.4%)	13 名(100%)

非当事者

はい	いいえ	わからない	計
183 名(80.6%)	5 名(2.2%)	39 名(17.2%)	229 名(100%)

Q8.1.2. その相談窓口の相談員は、どんな相談員を配置すべきだと思いますか？もっとも大切だと思うものを、以下から 3 つまで選んでください。（複数回答）

当事者(計 63 名)

- SOGIE に関する専門知識を有する人: 51 名(85.0%)
- セクシュアルマイノリティ当事者: 37 名(61.7%)
- SOGIE 関係の相談対応の経験が豊富な人: 37 名(61.7%)
- 公認心理士・社会福祉士のような専門資格を有する人: 20 名(33.3%)
- 一般的な相談対応の経験が豊富な人: 9 名(15.0%)
- 契約職員（このポジションのために雇用する人）: 8 名(13.3%)
- 関学正規職員: 4 名(6.7%)
- セクシュアルマイノリティ当事者以外の人: 3 名(5%)
- その他: 2 名(3.3%)（SOGIE に否定的な人でなければ誰でも安心できる・宗教主事の先生）

非当事者(計 182 名)

- SOGIE に関する専門知識を有する人: 140 名(76.9%)
- セクシュアルマイノリティ当事者: 119 名(65.4%)
- SOGIE 関係の相談対応の経験が豊富な人: 108 名(59.3%)
- 公認心理士・社会福祉士のような専門資格を有する人: 59 名(32.4%)
- 契約職員（このポジションのために雇用する人）: 23 名(12.6%)
- 一般的な相談対応の経験が豊富な人: 19 名(10.4%)
- セクシュアルマイノリティ当事者以外の人: 16 名(8.8%)
- 関学正規職員: 10 名(5.5%)
- その他: 2 名(1.1%)（SOGIE 関係の対応経験を深めたい人・非回答）

Q9.1. セクシュアリティ／ジェンダーに関連して、学生相談室のカウンセリングの利用経験はありますか？**【当事者のみ】**

はい	いいえ	計
5 名(8.6%)	53 名(91.4%)	58 名(100%)

Q9.1.2. セクシュアリティ／ジェンダーに関連して、学生相談室のカウンセラーの対応にがっかりしたことや違和を感じたことはありますか？

はい	いいえ	わからない	計
3 名(60.0%)	2 名(40.0%)	0 名(0.0%)	5 名(100%)

Q9.1.2.2. 具体的にはどのようなことですか？

- 非当事者のカウンセラーに、男性同性愛者は「女の役割をする側」「男の役割をする側」があると言う前提で話を進められた。ある意味では間違いではないが、自分は男性として男性が好きなので、違和感を覚えた。同性愛関係も、さまざまなバリエーションがあるので配慮が必要。(現役生)
- LGBT とか詳しくないから何か嫌な思いをさせちゃったらごめんね、と言われた。いちいち説明するのが面倒くさくて足が遠かった(現役生)
- 英語の授業での呼称に関して、「Xe」という三人称もある、といった的外れな対応をされた。別に特別扱いされたいのではない。逆に目立つから。そこをわかるのはやはり当事者でない人には厳しいのだと感じた。(現役生)

Q9.1.3. セクシュアリティ／ジェンダーに関連して、学生相談室のカウンセラーの対応でよかったことはありますか？

はい	いいえ	わからない	計
1 名(20.0%)	1 名(20.0%)	3 名(60.0%)	5 名(100%)

Q9.1.3.2. 具体的にはどのようなことですか？

- 全学に配慮願いを出すにあたって、医師の意見書がもらえるよう保健館と連絡をとってくれた。(現役生)

Q9.2. 今後、セクシュアリティ／ジェンダーに関連して、学生相談室のカウンセリングを利用してみようと思いますか？

はい	いいえ	わからない	計
4 名(6.9%)	30 名(51.7%)	24 名(41.4%)	58 名(100%)

Q9.2.2. なぜ相談してみようと思わないのですか？具体的に教えてください。

- 必要性を感じないから。(現役生)
- 自分は当事者でないため。(現役生)
- 自認がはっきりしているし、友達にもカミングアウトしている。特に困っていることがないから利用していないです。(現役生)

- 自分自身のセクシュアリティについて悩んでいないため。(現役生)
- 専門的な知識を持つ人がいないと感じたため。(現役生)
- 別に特別問題とも思えないし、思われたくない(現役生)
- 特に困りごとがないため。(現役生)
- セクシュアリティやジェンダーに関わらず、自分のことを相談しようとは思わないのでカウンセリングを利用したいとは思わない。(現役生)
- 説明するのが面倒。(現役生)
- 授業中の教員の発言など個人対応になってしまう悩みは多少あるが、全体的な悩みはなく快適に過ごせているから。(現役生)
- 情報漏洩等の不安(現役生)
- 特に相談する事項がない(現役生)
- 当事者の先輩に泣きつくほうが救われるから(現役生)
- 特に困っていないのでカミングアウトする必要がある(現役生)
- 行っても解決しないから(現役生)

Q10.1. 以下の取り組みについて、知っているものがあればチェックをいれてください（複数回答可）。

当事者 計 78 名 平均個数 4.30 個

レインボーウィーク	研修	健康診断	学生証	バリアフリーマップ	行動指針	ライフストーリー集	cassis	SOGIEプロジェクト	ランチ会
76 名 (97.4%)	18 名 (23.1%)	43 名 (55.1%)	29 名 (37.2%)	21 名 (27.0%)	21 名 (27.0%)	34 名 (27.8%)	38 名 (48.7%)	20 名 (16.5%)	34 名 (43.6%)

非当事者 計 182 名 平均個数 2.52 個

レインボーウィーク	研修	健康診断	学生証	バリアフリーマップ	行動指針	ライフストーリー集	cassis	SOGIEプロジェクト	ランチ会
173 名 (92.0%)	34 名 (18.1%)	67 名 (35.6%)	32 名 (17.0%)	36 名 (19.1%)	22 名 (11.7%)	34 名 (18.1%)	31 名 (16.5%)	17 名 (9.0%)	27 名 (14.4%)

Q10.2. これらの取り組みで、あなたのキャンパスライフに影響がありましたか？

当事者

はい	いいえ	わからない	計
25 名(30.0%)	38 名(46.3%)	19 名(23.2%)	82 名(100%)

- 私は香川県出身で、これまでの学校（中学、高校）では LGBT について学ぶことは全くなく、学校の先生から「ちょっとオカマっぽいねえ」といわれるような環境におり、疎外感を感じることもありました。しかし、関学では僕のような人間も受け入れてくれているんだと、様々なイベントを通じて感じ、この大学にきて良かったと思っています。（現役生）
- レインボーウィークを話題に上げることで LGBTQ+について知ってもらえることができた。（現役生）
- 支えてくれる感じ（現役生）
- 関学が LGBTQ+を取り巻く現状について問題意識を持っており・改善しようと努力しており、その活動に関わる学生が多くいることを知っているお陰で、他のコミュニティ内にいるときに比べて安心して友人と会話できるようになった。（現役生）
- LGBT の当事者も安心できる効果（現役生）
- 自分がもしマイノリティでもオープンにしていいたいという気持ちが生まれた。（自分の表現を使いたい/自分から恋愛感情を抱いたのは異性だが、同性でも抵抗は感じない。（現役生）
- 健康診断における個別対応（現役生）
- 健康診断の際、性別で分かれた日時設定が苦しかったので別日程の相談をしたら、丁寧に対応

してもらえた。バリアフリーマップを参考に、多目的トイレを利用している。(現役生)

- かろうじて生きられている(現役生)
- 大学3年の時、大学の多様性論の先生から cassis を教えてもらい、同世代のセクマイの友人ができました。一人目に会えるまでが本当に大変だと思うので、きっかけをもらえて本当に良かったです。(卒業生)
- 当時、三田所属だったので本キャンパスと比べるとセクマイに対する取り組みが少ないとは感じていますがサークルとランチ会を通して本当の自分として学生生活が送れたことで今の自分があると思っています。(卒業生)
- LGBTQ の学生や職員が過ごしやすい環境になるよう働きかけてくれている人が学内にいるということは在学中精神的な支えになりました。また、卒業してからは職場等でそこまで配慮されているところ見たことがないので、母校が進んで取り組んでくれていることを嬉しく思っています。(卒業生)
- 自身の理解の浅さに気づいた。また、向き合い方、対応の仕方をより考えるようになった。(教職員)
- 学生向けの取り組みであるが、教職員としても勇気づけられた(教職員)
- 存在を知っているから理解するに変化しました。(教職員)
- レインボーウィークのプログラムに参加したり、ライフストーリー集を読むことで本学の状況などについて知ることができた。(教職員)
- 継続して、SOGIE を敏感に意識・配慮しようとしつづけられる環境になっていること。(教職員)

非当事者

はい	いいえ	わからない	計
29 名(13.0%)	135 名(60.0%)	60 名(26.8%)	224 名(100%)

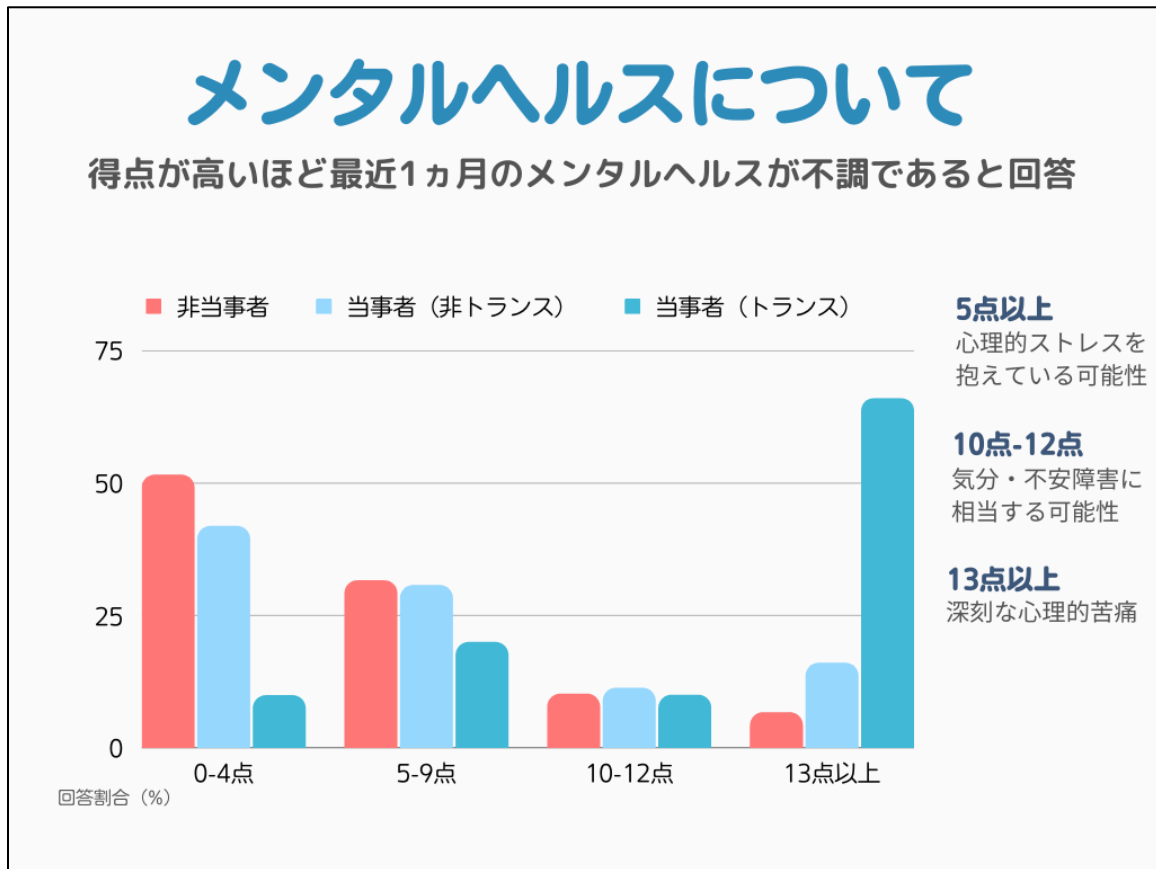
- 関学レインボーウィークの存在を知ったことでマイノリティであっても助けてくれる学校であると思った。(現役生)
- レインボー週間では LGBTQ について、身近に感じ、自分自身の価値観について振り返る機会になる。また、トランスジェンダーとお付き合いをしていた友人への理解が深くなったと思う。(現役生)
- それぞれの考え方や人権問題、他者への尊重などを意識するようになった。否定的ではなく、受け入れられるような人でいたいと思う。(現役生)
- 自分は関学 YWCA に所属しており、レインボーウィークに合わせて活動を行なったため。(現役生)
- LGBT の問題を意識するきっかけになった(現役生)
- 見聞が広がった。(現役生)
- LGBTQ という言葉を身近に感じる機会となり、性の多様性というものがめずらしいものと捉える感覚が薄れたからです。(現役生)
- 日常的の中での言動に責任を持つとか気をつけるとかではなく、理解することで自分がどのような言動をするべきなのか、常に考えながら人と接するようになった(卒業生)
- LGBTQ に対する意識が高まった。(現役生)

- ランチ会が開催されていることから、関学に LGBTQ+関連の問題に取り組む姿勢があることを感じ取ったことで、テレビ報道・体験談等の LGBTQ+関連の情報をより意識するようになった点。(現役生)
- 認識が少しずつ変わる気がする(卒業生)
- 人権講演会などに参加するきっかけになったこと、いろんな人がいることを理解したうえでの発言、行動を意識することが増えたこと(卒業生)
- 当事者の学生への情報提供が可能になった(教職員)
- SOGI に関する知識と理解が深まった(教職員)
- LGBTQ+に関する状況や SOGIE について知る機会が増え、自分自身の考え方や行動も変わったと思うから。(教職員)
- レインボーウィークの講演会で同性婚について当事者の方からのお話を初めて聞くことができた。(教職員)
- レインボーウィークに参加した。また実行委員会に入れていただこうと考えた。(教職員)
- 相談室のカウンセラーをしているので、この手の情報は非常に貴重で関心を持っています。もう少し情報へのアクセスがしやすいととても助かります。(教職員)
- 意識が変わりました。(教職員)
- 何事もまずは「知ること」から始まると思います。関学のレインボーウィーク等のイベントに参加して、LGBTQ に限らず、外国にルーツを持つ人や家族に関することなど、本当にいろんな悩みを抱えている人がこのキャンパスに集まっていて、じつはすぐ身近にもマイノリティと呼ばれる人たちがいると知りました。知ることによって、その人たちがどういうことで困りごとがあるのかを知りました。「いろんな人がいる」簡単な言葉ですがこれを理解し、人と接することで、無意識に傷つけてしまう回数は各段に減らせると思います。(教職員)
- LGBTQ に該当する方が、意外に身近に少なからずいることに気づかされた。数年前までは身近に一人もいない、と思っていたので、自分がいかに無知であったか気づき、(教職員)
- LGBTQ+当事者と関係者の方々の取り組みをこれまで以上に（大阪レインボーフェスタへの参加経験があるにはあったが）より身近なものとして感じることができた。(教職員)
- 彼氏や彼女という言葉は使わず、恋人や付き合っている人と言い換えるようにした(現役生)
- レインボーウィークがあり、それが学内で広報されることで、学内関係者とそれに関する会話をする機会ができたこと（イベントの説明など）。(教職員)
- 仲間とジェンダーやセクシャリティについて話題になること。(教職員)

Q11 メンタルヘルスについて

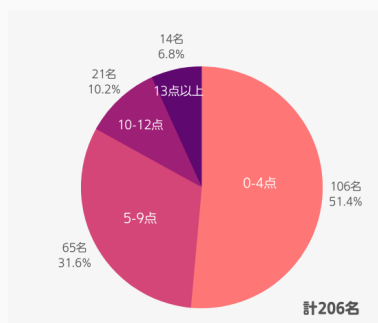
得点が高いほど最近1カ月のメンタルヘルスが不調であると回答

- 5点以上: 心理的ストレスを抱えている可能性
- 10点~12点: 気分・不安障害に相当する可能性
- 13点以上: 深刻な心理的苦痛



メンタルヘルスについて

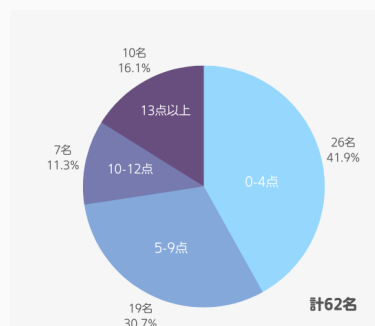
【非当事者】



平均
5.33点

メンタルヘルスについて

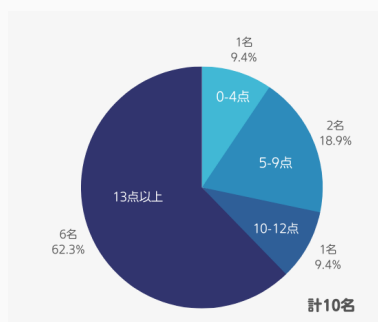
【当事者（非トランス）】



平均
6.97点

メンタルヘルスについて

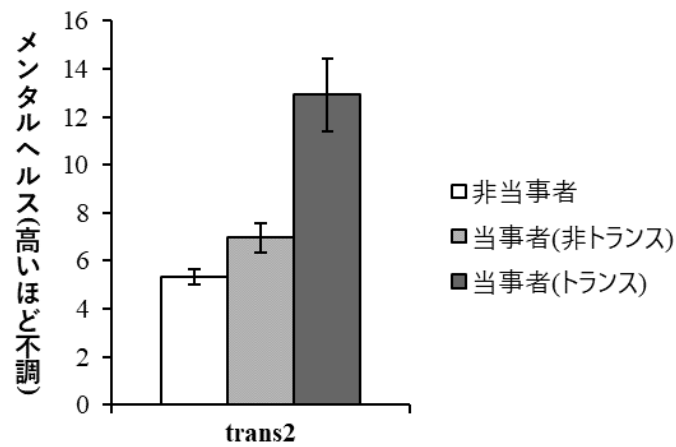
【当事者（トランス）】



平均
12.90点

HAD(清水、2016)を用いて一要因分散分析を行った。グループ間の差が5%水準で有意($F(272)=9.01$ 、 $p<.01$)であったため多重比較を行った。

結果として、非当事者 - 非トランス当事者、非当事者 - トランス当事者、非トランス当事者 - トランス当事者すべてに5%水準で有意差が見られた。



以上